

「努力」を身に付けた小体連大会

10月9日(水)小体連大会が実施されました。2学期のスタートとともに始まった練習ですが、暑い中の練習にも関わらず黙々と頑張る姿に、子ども達の確かな成長を感じていました。

大会前日には、壮行会が行われ、5・6年生の決意の言葉や1～4年生の力強い応援などで、選手のやる気も高まり、本番に向けて心と体の準備もしっかりできたと思えました。

壮行会でお願いしたことは「最後まで全力を尽くす。」ということです。きつかったり勝負を諦めたりして、ゴールする前に力を抜く姿を見ると、とても残念な気持ちになります。これまで指導してくださった先生方、一生懸命応援してくれた下級生、忙しい中応援にかけつけてくれた家族に感謝の気持ちを伝えるためにも、精一杯頑張ることの大切さを伝えました。

大会当日は、改装された真新しい運動公園で、子ども達の活躍する姿をたくさん見ることができました。何よりも嬉しかったのは、13名の子ども達全員が、ゴールの瞬間まで必死に走りぬいたということです。子ども達のあきらめない気持ちが自己新記録にもつながり、達成感を味わいながら運動公園をあとにすることができました。

この最後まであきらめない姿は、13日(日)に開催された富江地区体育祭でも見ることができました。短距離走では、ゴールするまで勝負をあきらめず、最後に逆転するという場面がたくさんありました。年代別リレーでは、地区の代表としての責任を果たし、次の走者にしっかりバトンをつなぐことができました。

行事を通して学んだことを、次の活動にしっかり生かすことができる子ども達の姿に、とても感動した1日でした。どの学年でも、「つづける名人」が順調に育ってきています。

鼓笛隊の演奏後、地域の方から「運動会より良かったよ。上手になったね。」と声をかけられました。子ども達の成長を温かく見守って下さる方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。



かわいい「あいさつ名人」たち

先日の掃除の時間のことでした。1年生が1階廊下の雑巾がけを頑張っているときに、市役所の方がみえられました。それに気づいた子どもが、「こんにちは」と元気よく挨拶をしました。相手の方も嬉しそうに挨拶を返しています。その後も「こんにちは」「こんにちは」・・・、子供たちの挨拶がずっと続きました。その都度、挨拶を返すのも大変だろうなあと思いましたが、きっと仕事の疲れも吹っ飛び、清々しい気持ちになったことでしょう。

2学期の目標として、「来校された方にも、しっかり挨拶ができる」ことを掲げています。これをしっかり実践している子ども達の姿に感激しました。もちろん、ほかの学年の子ども達も、明るく元気な挨拶が習慣化してきています。これからも、「挨拶するのは、当たり前」という「あいさつ名人」を育ててきます。いつでも・どこでも・誰にでも・自分から挨拶ができるように、子ども達への励まし、称賛をお願いします。